

インタビュー

辺野古基地建設を止めるために

高里鈴代・辺野古新基地を造らせないオール沖縄会議 共同代表

聞き手 林 鉄兵・『月刊自治研』編集長

何度も示されてきた沖縄の民意を考慮せず、国によって辺野古の基地建設が強行されている。
 シオール沖縄としてこれまでの活動の軌跡を振り返りつつ、
 辺野古基地建設をとめるために他県で暮らす市民は
 どう関わっていけるかを語っていた。

シオール沖縄の誕生の経緯と活動

——一九九六年の日米両政府による米軍普天間飛行場の返還合意を受けて、辺野古新基地建設問題が浮上してから四半世紀が経とうとしています。これまで幾度もの選挙を通じて、沖縄県民は、辺野古新基地建設に対して明確にNOを表明さ

れて続けてきました。

はじめに、シオール沖縄が誕生するにいたった経緯についてお聞かせください。

シオール沖縄の正式名称は「辺野古新基地を造らせないオール沖縄会議」といい、二〇一五年二月一日に結成されました。はじめに結成までの過程をご紹

に安倍首相と会談し、二七日に辺野古基地移設受け入れを表明しました。会談後の記者会見では、振興予算を予定通り確保できたとして、「これはいい正月になる

な、というのが私の実感」とさえ発言しました。辺野古基地移設を取引材料にして、県民の利益になる経済援助を獲得したぞ、お土産を持って帰るんだと言わんばかりの県民を愚弄する発言に、本

当に打ちのめされました。

これがきっかけとなって、二〇一四年の知事選での仲井眞知事三選を何としてでも止めなければという動きが強くなり、二〇一〇年の県知事選で辺野古基地移設反対を公約に掲げた仲井眞さんの当時那覇市長の選挙対策委員長を務められた翁長雄志さんとしては、ひどく裏切られた思いだったのではないのでしょうか。

こうした仲井眞知事の動きに対して、沖縄県内の四一市町村の首長が自筆で署名して、オスプレイ配備反対と普天間

介します。

二〇一〇年一月の知事選で、立候補の際に辺野古基地移設反対を公約に盛り込んだ仲井眞弘多さんが、当初から明確に辺野古基地移設反対を表明していた伊波洋一さんを破って二選をはたしました。

その後、二〇一三年の暮れ、仲井眞知事は、二月の県議会に初日に出席しただけで、二日目からは体調不良で欠席し、検査入院のために上京しました。東京滞在中の仲井眞知事に対して、国から辺野古基地移設の説得工作が強力に行われるのではと沖縄では不安が広がりました。そこで、仲井眞知事に辺野古基地移設反対を貫いてほしいと激励集会をやったり、女性たちは夜に県庁前で座り込みをしました。私も女性代表として、当時の高良倉吉副知事と面会して、知事が入院中に国の要人に説得されてしまわないように、一日も早く退院して沖縄に帰ってきてもらいたいとお願いしました。

仲井眞知事は、退院後の二月二五日

基地の辺野古への移設反対を求める建白書を決議しました。

二〇一三年一月二七日に東京で開催されたオスプレイ配備撤回と辺野古基地移設反対を求める大規模な集会と銀座デモに、建白書に署名した四一市町村の首長や議長をはじめ、自民党も含めた県議、経済界の代表など一四一人が上京して参加しました。その時、沿道から、「日本を守るためにオスプレイを配備するのに、それを要らないというのなら、日本から出ていけ、売国奴!」といった、ものすごいヘイトスピーチを浴びせられたんです。デモの翌日には、沖縄から上京した一四一人の中から二〇人ほどが代表として、建白書を持って首相官邸をはじめ防衛省、外務省などに行きました。その時、街宣車に乗った右翼がやってきて、代表団に向かつて、「昨日のデモ、あれは何だ、あれはドブネズミの行進だ」と言うんですよ。翁長さんもその時を振り返って、コメントされていましたが、外で代表団を



たかさと・すずよ ●一九四〇年台湾生まれ。一九八九年から二〇〇四年まで四期一五年那覇市議会議員を務める。二〇一五年のシオール沖縄結成とともに共同代表に就任。その他、強姦支援センター、沖縄代表。『基地・軍隊を許さない行動する女たちの会共同代表』『軍事主義を許さない国際女性ネットワーク』沖縄代表。沖縄平和市民連絡会共同世話人などを務める。主な著書に『沖縄の女たち』基地・軍隊と女性の権利（明石書店、一九九六年）、『社会を拓いた女たち』沖縄（共著）（沖縄タイムス社、二〇一四年）、『これが民主主義か?』辺野古新基地に、NOの理由（共著）（影書房、二〇一二年）など。